

小野建・堺スチールセンター(大阪)

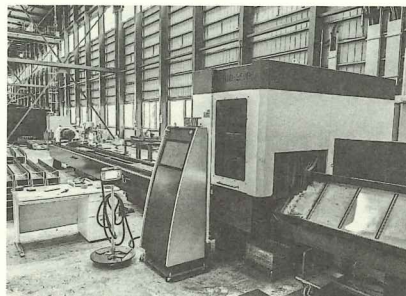
ビームコースターを導入

3次元の複雑な加工に対応

小野建(本社・福岡県北九州市小倉北区、小野剛社長)はこのほど、堺スチールセンター(大阪府堺市西区、齒染幸治所長)にアングルやチャンネル、小型H形鋼などが加工可能なプラズマ形鋼切断機「ビームコースター」を導入した。9月から加工受注を開始しており、従来機の大東精機のドリルコーピングマシン「DCM1000」と併せて3次元の複雑な形状の加工に対応していく。

これまで3次元加工は、大東精機の「DCM1000」を使って複雑な形状の切断や長孔、切り欠きに対応していた。しかし、小サイズの注文を効率的に加工するため「HID-250BC」を導入、3次元加工設備を2台体制とした。

齒染所長は「鋼材を360度回転でき、細かな加工に向いている。複雑



導入した3D加工機

な加工は、人材不足、技術者の不足によってニーズは増えていくだろう。われわれは「クニづくり・マチづくり・モノづくりに貢献する」ことを存在意義としている。これまで受けきれなかったニーズに 대응していきたい」と話す。

今回導入したビームコースターはYouTubeの「小野建チャンネル」で紹介する予定。

導入したのは、丸秀工機の形鋼切断機「ビームコースター」HID-250BC。材料長さが3000mm、7000mm、製品長さは3000mmまで、加工可能鋼材幅が50mm×50mm〜250mm×250mmと小サイズにも対応する。

JFEスチール(12月1日付)▽厚板セクター部主査/東京駐在(建材セクタープロジェクト営業部主査/東京駐在) 太田佳永▽建材センター建材営業部土木建材室主査兼営業総括部主査/東京駐在(建材セクター建材営業部土木建材室主査/東京駐在) 一井寿武

▽建材センター建材営業部建築・プロジェクト室主査(建材センター建材営業建築・プロジェクト室主査兼営業総括部主査/東京駐在) 中村知史▽厚板営業部厚板室主査/東京駐在(厚板営業部厚板室主査兼営業総括部主査/東京駐在) 森谷真吾

東京コラム

弱含み横ばい

東京地区のコラム(CR)の市況は弱含み横ばいが続いている。一部では安値も散見される。荷動きはあまり良くない。依然として中小を中心とした建築需要がさえないことから、受注競争が激化している。このため、一部の鋼材販売業者



カーはコラムの値上げを打ち出していない。ただ、H形鋼など建築向け僚品の値上げを表明している鉄鋼メーカーもあること

から、市中の雰囲気は少し変わってきたように感じる。徐々に底値感がみえつつある。

中小物件を手掛けるファブは山積みや稼働率の確保に苦戦しているようだが、少しずつ市中の雰囲気が変わりつつある中で、下期以降の荷動き回復に期待している。その間、市況の維持に努めている。(岡修一・光洋商事東京営業統括部建材営業マネジャー)

関西 鋼縁

C形鋼は依然横ばい

鋼縁の需要は例年と比較して半減の状態が昨年



から続いている。S造案件が低調であるのに加え、鋼縁を使用する物件が少なくと感じる。

鋼縁に使用するC形鋼の価格は、メーカーの値上げなどを背景に、関西圏で形鋼・条鋼類で下値

を見直すなどの取り組みで収益性の一層の改善を図っていく必要があるが、鋼縁製作は作業工数が多い上に利益率が低く、苦

の切り上げが始まっていると聞くものの、現状は横ばいが続いている。

材料コストの上昇が見込まれるなら、製作効率

は今後も鋼縁の需要回復はみえていない。秋需といわれる季節的な需要もほとんどなく、来年にかけてはしばらく鉄骨需要全体が伸び悩むと聞いており、厳しい環境が続くそう。今後の鋼材動向を注視しているが、需要停滞で鋼材価格は値上げが厳しい環境だろう。(小田岳人・小田鉄工社長)

市況展望